

# 高知県の観光

## —ひろめ市場を中心に—

### 2 回生 加納里彩

#### I. はじめに

高知県は、四万十川や太平洋、四国カルストなどの大自然に恵まれており、豊かな森林と海に囲まれた県である。「よさこい祭り」に代表される個性豊かな地域の文化を発展させるとともに、坂本龍馬をはじめとする幕末の偉人を多く輩出しており、それらは観光資源の一つとして活用されている。また、高知県の県魚であり地域を代表する食素材であるカツオや、幻の和牛と呼ばれる土佐あかうしといった食材のほか、皿鉢料理をはじめとした郷土料理が有名で、四国山地や東西に広がる太平洋に囲まれた地形を生かし、地域ごとに異なる食文化が形成されている。さらに、近年では2010年のNHKドラマ「龍馬伝」や2021年公開の映画「竜とそばかすの姫」の舞台となるなど、ロケツーリズムを活用した観光にも力を入れている。本稿では、まず高知県県外観光客入込・動態調査をもとに高知県の観光の概要を述べる。次に高知県を訪れる観光客の目的に着目し、その中でも特徴の一つである食に着目し、高知県の代表的な食の観光名所の一つであるひろめ市場を中心に、聞き取り調査と現地調査をもとに高知県を訪れる観光客の観光の目的の変化について述べる。

#### II. 高知県の観光の概要

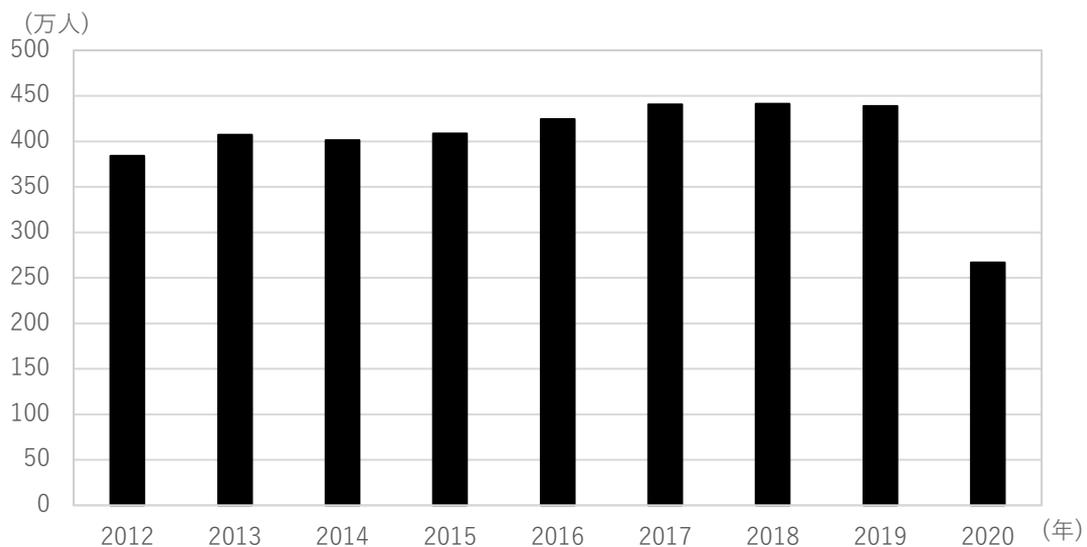


図1 高知県における県外観光客数の推移（2012～2020年）  
（高知県県外観光客入込調査より作成）

図1は、2012年から2020年における高知県の県外観光客数の推移を表した図である。高知県の観光客は、2012年から2015年にかけては400万人前後で推移しているが、2016年から2019年にかけては増加傾向にあり、450万人近くまで観光客が増加している。2015年から2019年にかけて県外観光客が増加した要因として、2015年に販売された「高知家プレミアム旅行券」による入込客数の増加や高知県が独自で取り組んでいる観光キャンペーンで、2014年から2016年にかけて行われた「リョーマの休日～高知家の食卓」を中心としたプロモーションの展開、2014年に行われたクルーズ客船が接岸できる高知新港での岸壁の整備やその後の誘致活動による外国クルーズ船の寄港の増加、2017年から2019年にかけて行われた歴史をテーマにした博覧会「志国高知 幕末維新博」の開催を通じたプロモーションの強化や歴史基盤の整備など、の取り組みが挙げられる。観光客の集客のために官民一体の取り組みによるものと考えられる。また、2020年には観光客が210万人近くまで減少しているが、これは新型コロナウイルスの感染拡大によるものであると考えられる。

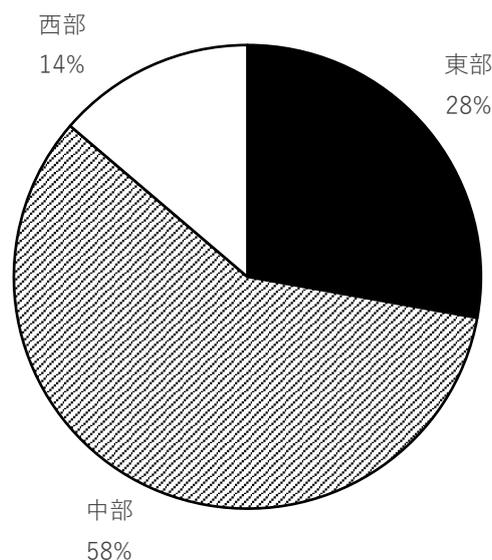


図2 高知県内の観光施設の地域別利用者数割合（2020年）  
（高知県県外観光客動態調査より作成）

※東部：室戸市～香美市、中部：南国市～中土佐市、西部：四万十市～土佐清水市

図2は、高知県内の観光施設の利用者数の割合を地域別に示したものである。この図から、高知県の観光客は高知県中部を訪れる人が約6割を占めており、次いで東部、西部の順に多いということが読み取れる。これは、高知県中部に高知城や桂浜（高知市）、高知県立のいち動物公園（香南市）などをはじめとする主要な観光施設や幕末の偉人に関する記念館、博物館が多く集積しているためと考えられる。また、東部にはむろと廃校水族館（室戸市）や

北川村「モネの庭」マルモッタン(北川村)などが、西部には高知県立足摺海洋館「SATOUMI」(土佐清水市)などがそれぞれ主要な観光施設として挙げられる。高知県東部、西部の観光施設の特徴として、高知県中部の観光施設よりも自然見物やまちあるきをテーマとした観光施設が多いことが分かる。高知県東部、西部を訪れる観光客が高知県中部を訪れる観光客よりも少ない要因として、高知市外からのアクセスの所要時間が長いことが挙げられる。例えば、むろと廃校水族館(室戸市)は高知自動車道高知ICからは車で約2時間、高知竜馬空港からは車で約1時間40分の移動時間を要する。また、高知県立足摺海洋館「SATOUMI」(土佐清水市)は、高知自動車道高知ICから車で約2時間半、高知竜馬空港からは車で約2時間40分の移動時間が必要となる。これらのことから、高知市から自動車でのアクセスがしやすい高知県中部の観光施設を訪れる観光客が多いと考えられる。

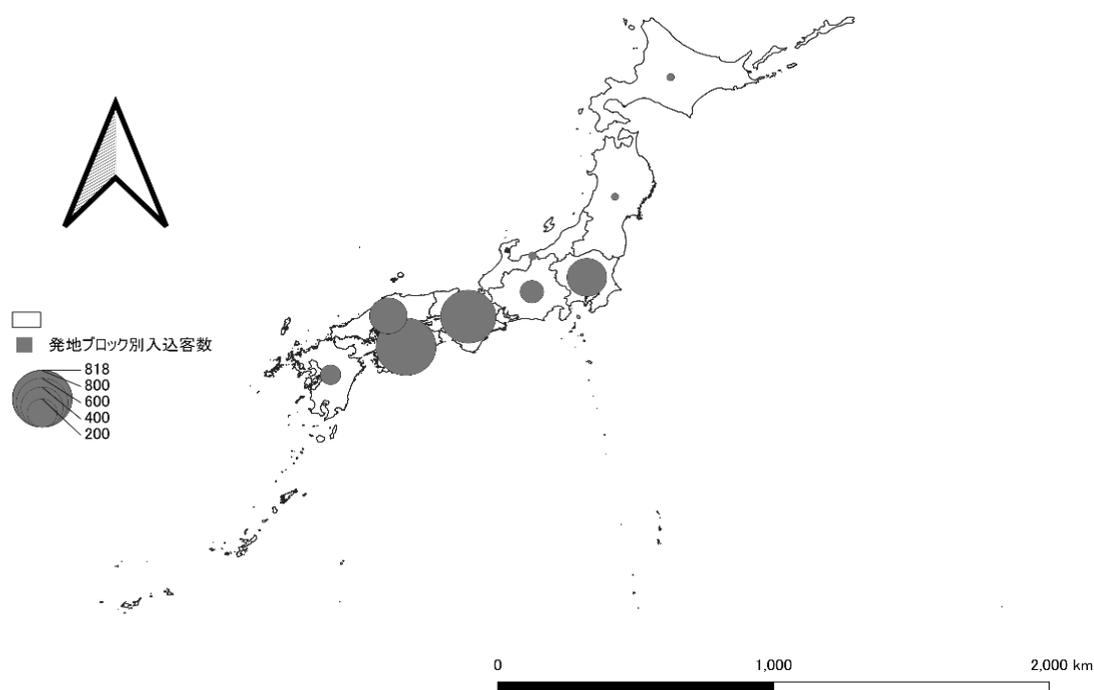


図3 高知県の観光客の発地ブロック別入込客数 (n=2,460) (2021年)  
(高知県県外観光客動態調査より作成)

図3は、高知県外からの入込客数を発地ブロック別に示した図であり、それぞれのブロックの入込客数は、四国地方は818件、近畿地方が697件、関東地方が359件、中国地方が323件、甲信・東海が127件、九州・沖縄が97件、北陸・新潟が16件、東北地方が14件、北海道が14件となっており、四国と近畿で約6割を占めている。この図から、高知県では四国地方、近畿地方、関東地方、中国地方からの観光客が多く、北海道や東北、北陸・新潟からの観光客が少ないという特徴が読み取れる。

四国地方では愛媛県、香川県の観光客が多く、これは国道 33 号線、高松自動車道や高知自動車道で車など自動車でのアクセスがしやすいためと考えられる。徳島県は愛媛県、香川県と比較すると入込客数が少ないが、これは、徳島県が高知県への自動車でのアクセスが不便で、高知県を除く四国 3 県の中で最も移動時間がかかるためと考えられる。

近畿地方では大阪府からの観光客が 42%、兵庫県からの観光客が 36%を占めており、残りの 5 府県からの観光客数が占める割合はそれぞれ 10%以下である。大阪府、兵庫県から高知県への移動手段は、飛行機、鉄道、高速バス、自動車といったものが挙げられる。特に、自動車での移動は瀬戸大橋と高松道を経由するルートや明石海峡大橋と大鳴門橋、高松道、徳島道経由のルートがあり、兵庫県、大阪府から高知県への移動は本州四国連絡橋を通るという方法が一般的であるといえる。

関東地方では東京都からの観光客が 51%を占めており、次いで神奈川県からの観光客が 23%、埼玉県からの観光客が 12%、千葉県からの観光客が 10%で、残りの 2 件からの観光客数はそれぞれ 10%未満となっている。東京都から高知県を訪れる観光客が多い要因として、東京都から高知県へ移動する交通手段が多くあるということが考えられる。東京都から高知県への交通手段は高速バス、飛行機、新幹線などがあるが、どれも乗り換えを必要としないというアクセス面の利便性の高さが特徴であるといえる。

中国地方では岡山県からの観光客が 47%、広島県からの観光客が 43%と、瀬戸内海側の 2 県で 9 割を占めており、山口県、鳥取県、島根県からの観光客は 3 県からの観光客を合わせて 1 割である。岡山県、広島県からは高知県行き的高速バスが運行されているのに加えて、岡山県からは JR 土讃線の特急南風での電車の移動が可能であり、広島県からは瀬戸大橋やしまなみ海道といった本州四国連絡橋を経由しての自動車での移動が可能であることが、中国地方のうち瀬戸内海側の 2 県からの観光客が多い要因であると考えられる。

また、北海道や東北、北陸・新潟といった高知県から離れた地域からの観光客は他地域からの観光客よりも少ないことが読み取れる。これには交通の便が深く関係しており、北海道から高知県への飛行機の直行便がなく羽田空港や関西空港を経由する必要があるほか、東北や北陸・新潟からも自動車や高速バスを利用してもかなりの移動時間を要することから、これらの地域からの観光客は少ないと考えられる。以上のことから、高知県に近く、アクセスしやすい地域からの観光客が多いということが分かる。

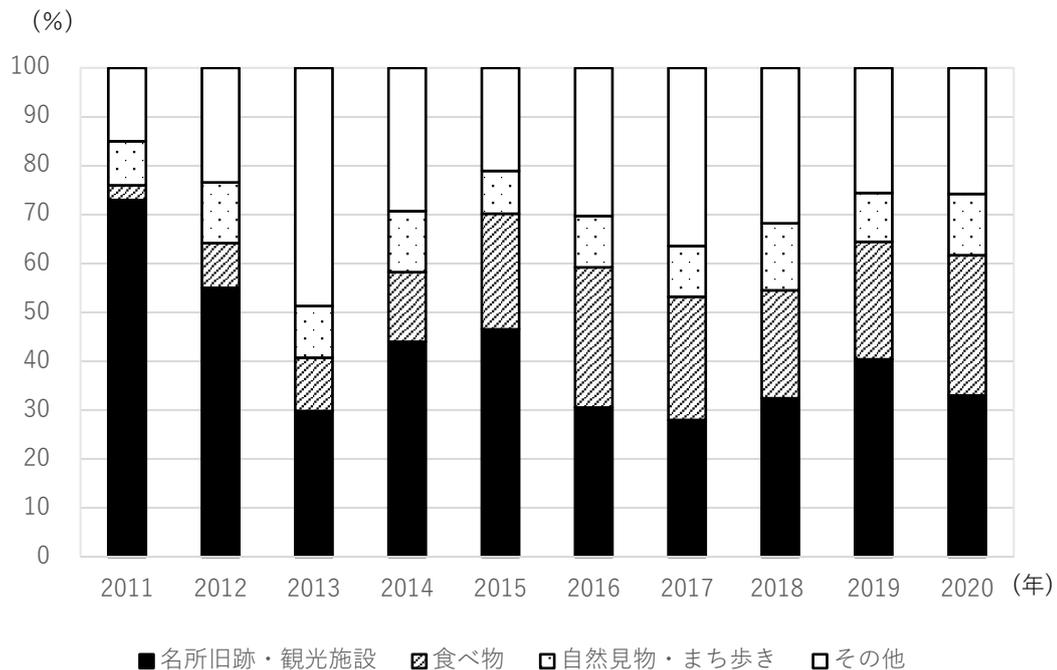


図4 高知城における観光客の旅行目的割合の推移 (2011～2020)  
(高知県県外観光客動態調査より作成)

図4は、高知城における観光客の旅行目的割合の推移を示した図である。高知城は高知市にある観光施設であり、高知県の代表的な名所旧跡観光地の一つである。この図から、2011年から2014年までは名所旧跡・観光施設を目的とした観光客が多かったが、2015年から2020年にかけては食べ物を目的とした観光客の割合が増加していることが分かる。これは、2014年から2017年にかけて高知県で行われた観光キャンペーン「リョーマの休日～高知家の食卓～」が要因の一つであるということが聞き取り調査から分かった。この観光キャンペーンによって、高知県の観光を売り出すにあたって食としての盛り上げるため、番組やパンフレットなどを通して消費者に高知県の食の魅力を伝えるという取り組みが行われた。また、旅行の考え方への変化も要因の一つであるといえる。以前は名所旧跡を訪れることが旅行の大きな目的としてとらえられていたが、近年では泊食分離にも象徴されるように、食を旅行の目的としている観光客も多いという。

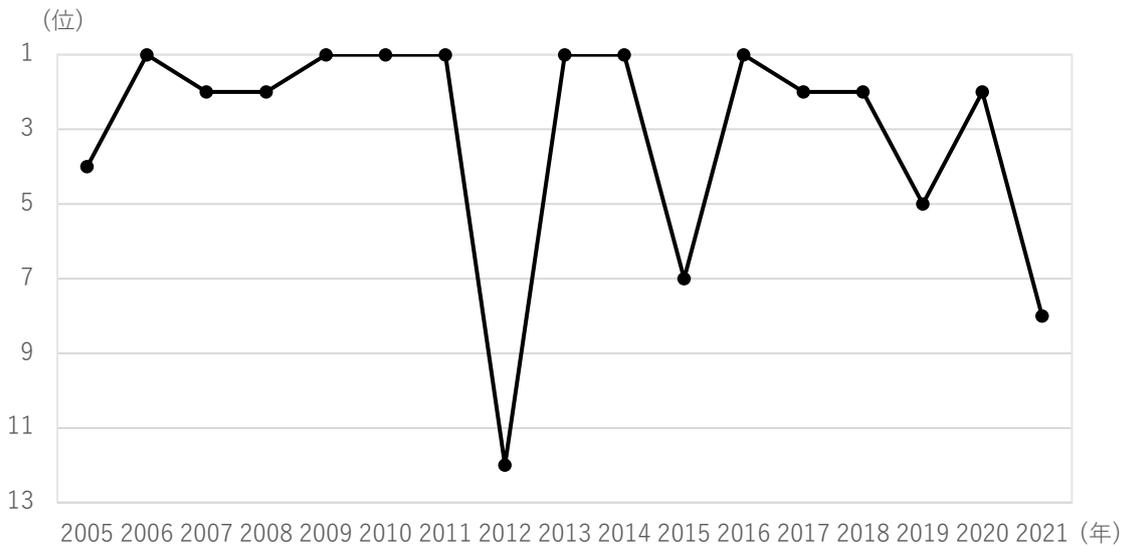


図5 「じゃらん宿泊旅行調査」テーマ別・都道府県魅力度ランキング  
「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」の高知県の順位の推移（2005～2021年）  
（高知県庁提供資料より作成）

図5は、「じゃらん宿泊旅行調査」のテーマ別・都道府県魅力度ランキング内の「地元ならではのおいしい食べ物がおいしかった」という項目における、2005年から2021年にかけての高知県の順位の推移を示した図である。この図から、高知県は、じゃらん「ご当地ならではのおいしい食べ物が多かった」ランキングでは2005年から2021年の17年間で7度1位に選ばれていることがわかる。図4の高知城における観光客の旅行目的別割合の推移の図からも読み取れるように、食を中心とした旅行形態が広がっているということが聞き取り調査から分かった。

### III. ひろめ市場における観光

#### 1) ひろめ市場の概要

ひろめ市場は、高知城から約850mに位置し、飲食店や物産店がひしめきあう巨大な屋台村である。ひろめ市場は1998年に「この土地を商店街活性化の核に」と地元から提案されたプランに、所有者と地元建設企業が賛同したことで建設が開始され、同年10月にオープンした。開店当初のひろめ市場は、『高知の新しい観光スポットとして、高知の衣食住文化を「ひろめる」、高知の人情。人となりを「ひろめる」、高知の知識、芸術、文化を「ひろめる』を基本コンセプトとしており、現在は食素材に恵まれた地域であるという特徴を生かし、高知県の食を楽しんだり、土産物を購入したりするだけでなく、施設内にある観光案内所では高知県内の観光地の情報を得ることもできる場所として、高知県の観光名所の一つとなっている。また、ひろめ市場は観光客だけでなく高知市内外の人々も多く利用する施設で、観光客と地域の人々との交流の場ともなっている。高知県は「人と人との繋がり」を大

切にしており、ひろめ市場は知らない人とお酒を酌み交わすことができる場として県外の観光客からも注目されている。

ひろめ市場の場所は、幕末、四代の土佐藩主に仕えた名家老の深尾弘人蕃頭（ひろめしげあき）の屋敷跡で、明治維新後も、市民はこの一帯を「弘人（ひろめ）屋敷」と呼んでいたことから、「ひろめ市場」と名付けられた。また、この名前には土佐の食文化などを「ひろめ」たいとの願いも込められている。

バリアフリー対応も充実しており、高齢者や障害のある人、小さな子ども連れにも楽しんでもらえるよう、フラットな出入口、車いすでも楽に通行できる通路等、多目的トイレの設置、授乳室の設置など、優しい施設づくりに努めている。さらに、外国語にも対応しており、インバウンド観光による外国人観光客にもわかりやすい施設となっている。

また、ひろめ市場は「ごみを出さない」街づくりの実現に向けて、使い捨て食器の使用や紙コップ、瓶、缶、ペットボトルの販売を控え、食器センター方式を取り入れるという取り組みを行っている。食器センター方式では、レンタル食器を用意して各店舗に使用してもらい、食器センターが食器の回収、洗浄、配達を行うという食器センター方式を取り入れており、小さい店舗で飲食店をする人件費の削減や、環境問題にも考慮して営業を行っている。これらのバリアフリー対応や食器センター方式は開店時の1998年から継続して行われている取り組みであり、創業当初から施設利用者や環境に配慮した営業が行われている。

近年では、新型コロナウイルスの感染拡大に対応し、図8のように各テーブルの間隔をあけるとともに、利用人数に制限を設け、館内でのマスク着用を呼び掛けるなど、新型コロナウイルスの感染拡大予防にも配慮して営業を行っている。また、高知県独自の文化である「返杯」もひろめ市場で見られたが、これも新型コロナウイルスの影響で衰退してしまった。



図6 ひろめ市場の位置  
(地理院地図に加筆)



図7 ひろめ市場の入り口  
(2022年9月5日撮影)

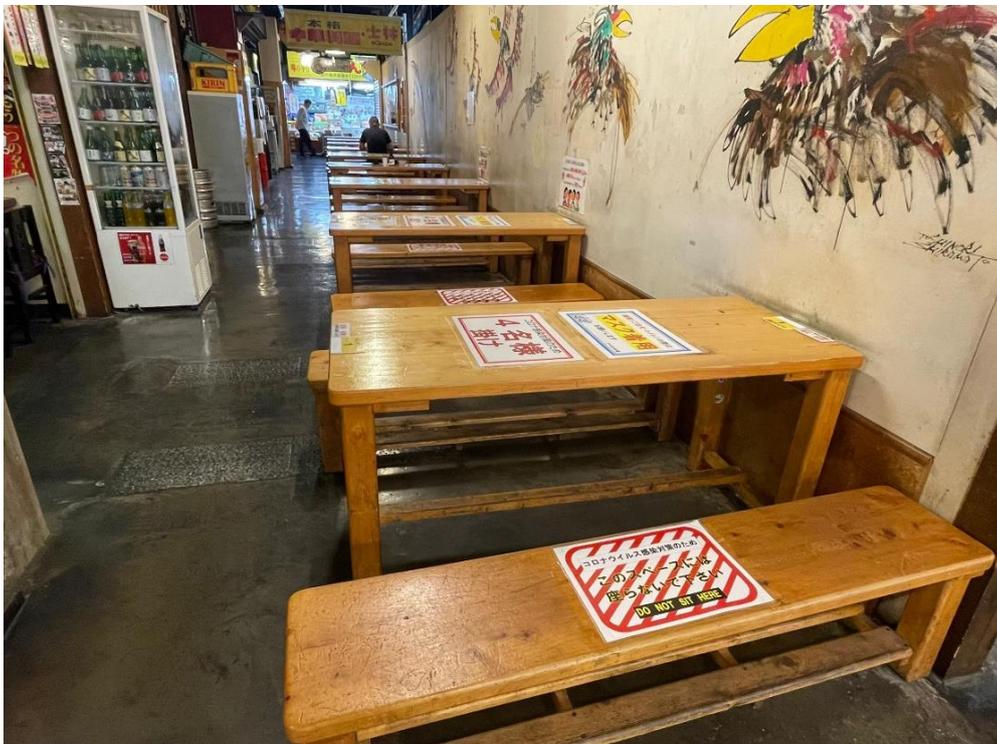


図8 ひろめ市場の店内  
(2022年9月5日撮影)

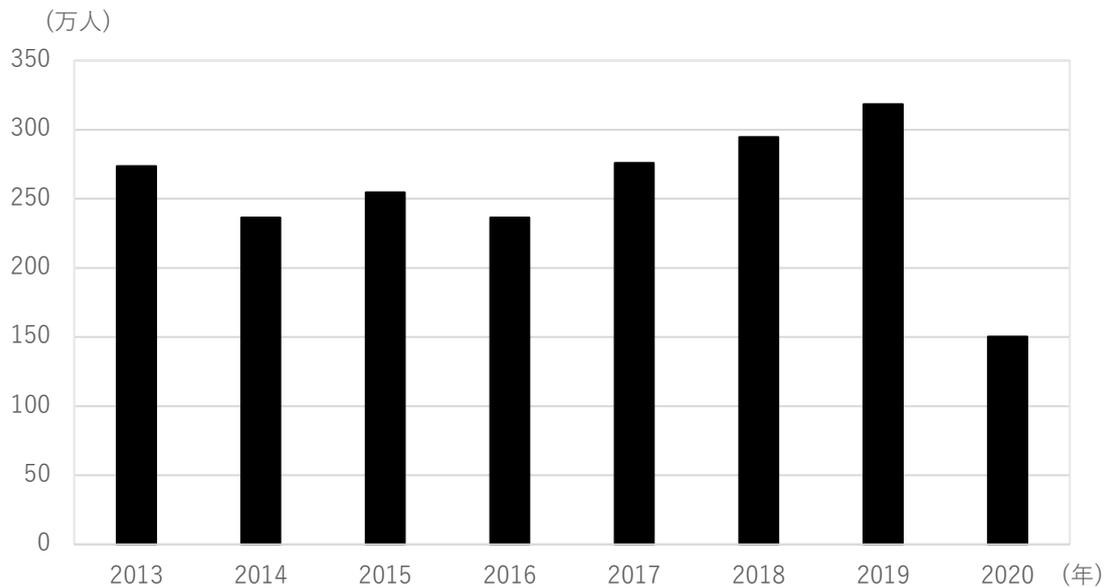


図9 ひろめ市場の利用客数の推移（2013～2020年）  
（高知県県外観光客動態調査、高知県提供資料より作成）

図9は、2013年から2020年におけるひろめ市場の利用客数の推移を示した図である。2013年から2016年にかけては250万人前後で、利用客数は維持される傾向であったが、その後2016年から2019年にかけて増加傾向にあるといえる。2019年には320万人近くにまで利用客が増加したが、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大によって県外観光客による利用が減少したことで、利用客は約150万人にまで減少した。図1の高知県における県外観光客数の推移の図と比較すると、2014年から2015年にかけての観光客数の増加や2016年から2019年にかけての観光客数の増加、2020年の観光客数の減少など、類似する推移を示しているといえる。

2) ひろめ市場の構成店舗の変化

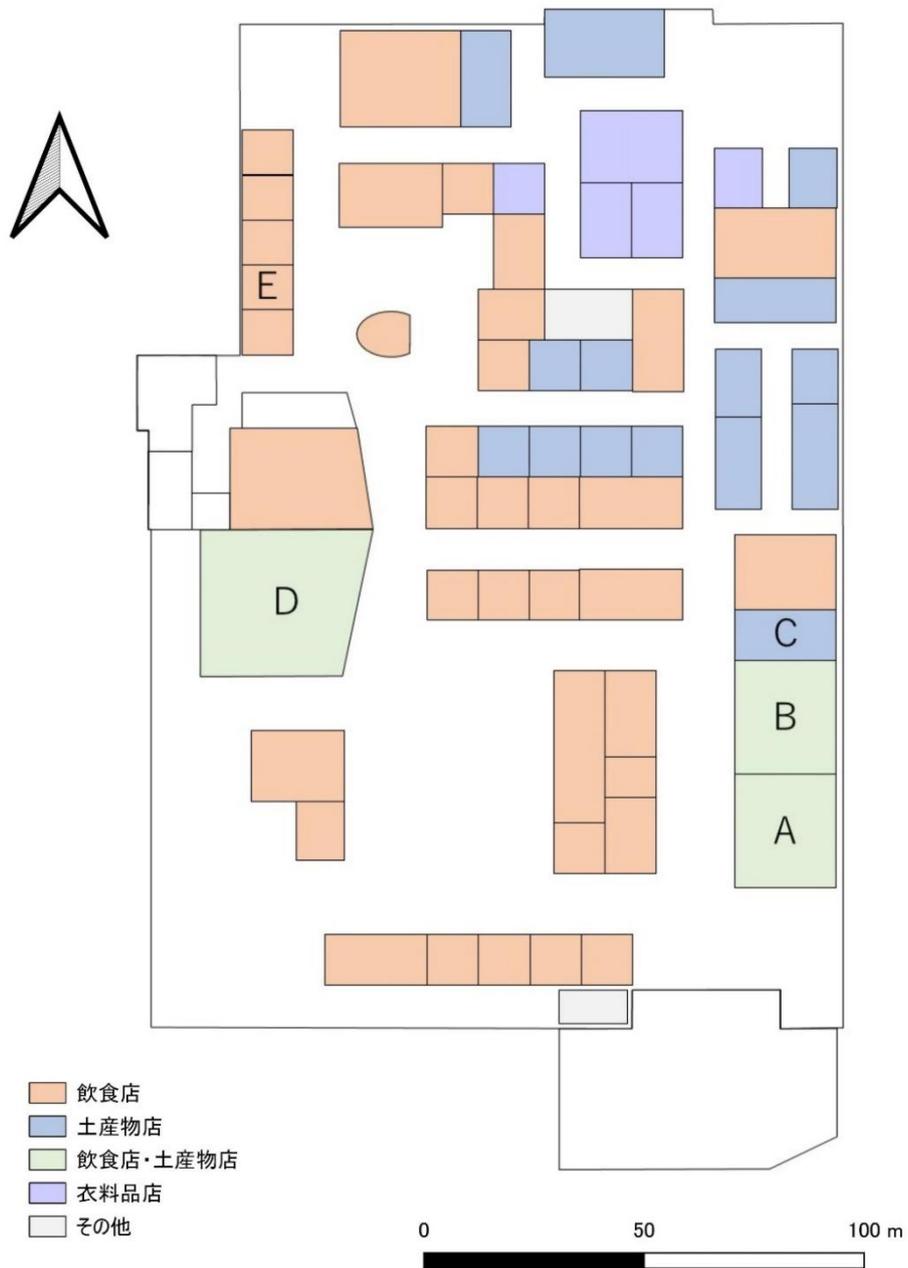


図 10 ひろめ市場の構成店舗 (1998 年)  
 (帯屋町二丁目商店街振興組合提供資料、ひろめ市場「お店のご紹介」より作成)

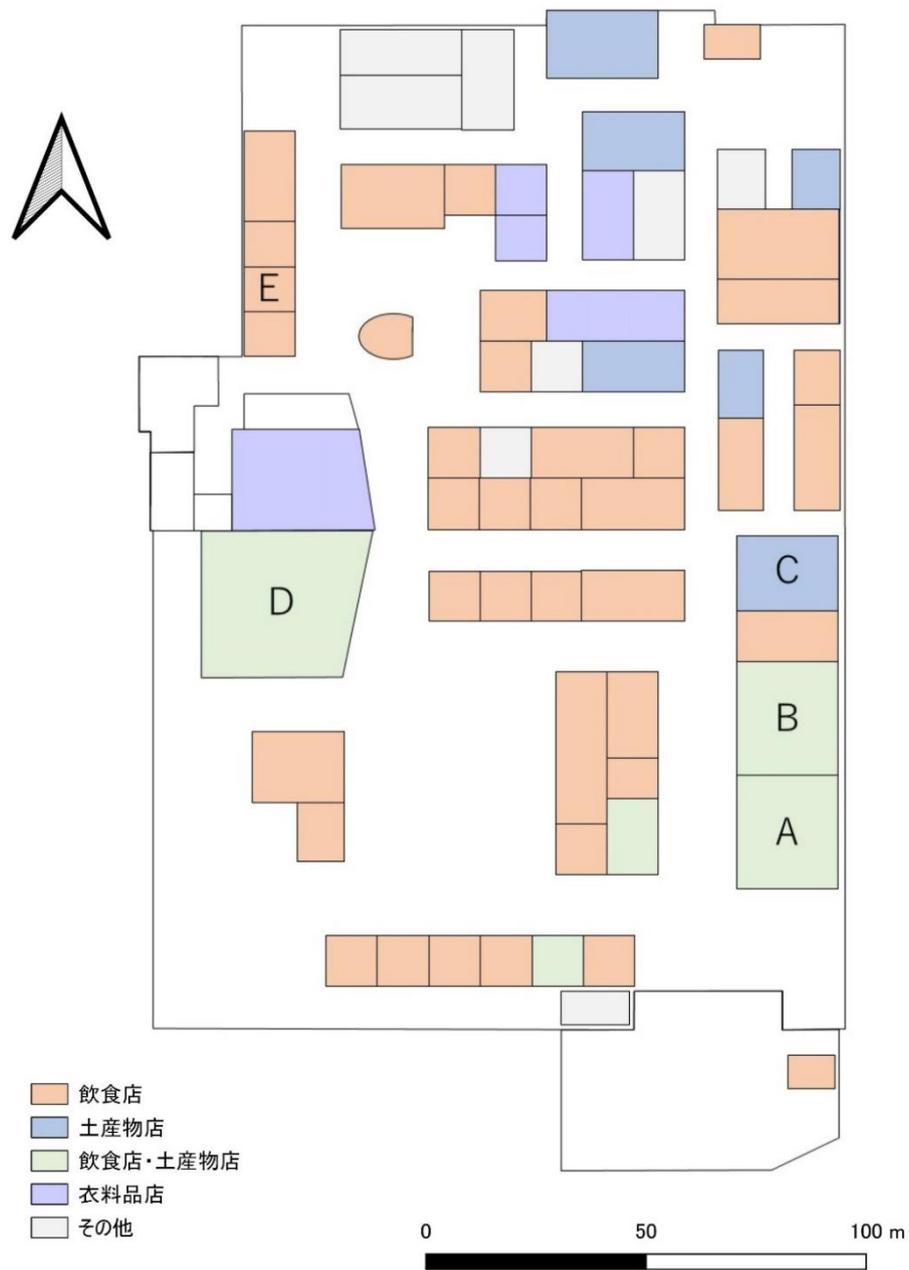


図 11 ひろめ市場の構成店舗（2009 年）  
 （帯屋町二丁目商店街振興組合提供資料、ひろめ市場「お店のご紹介」より作成）

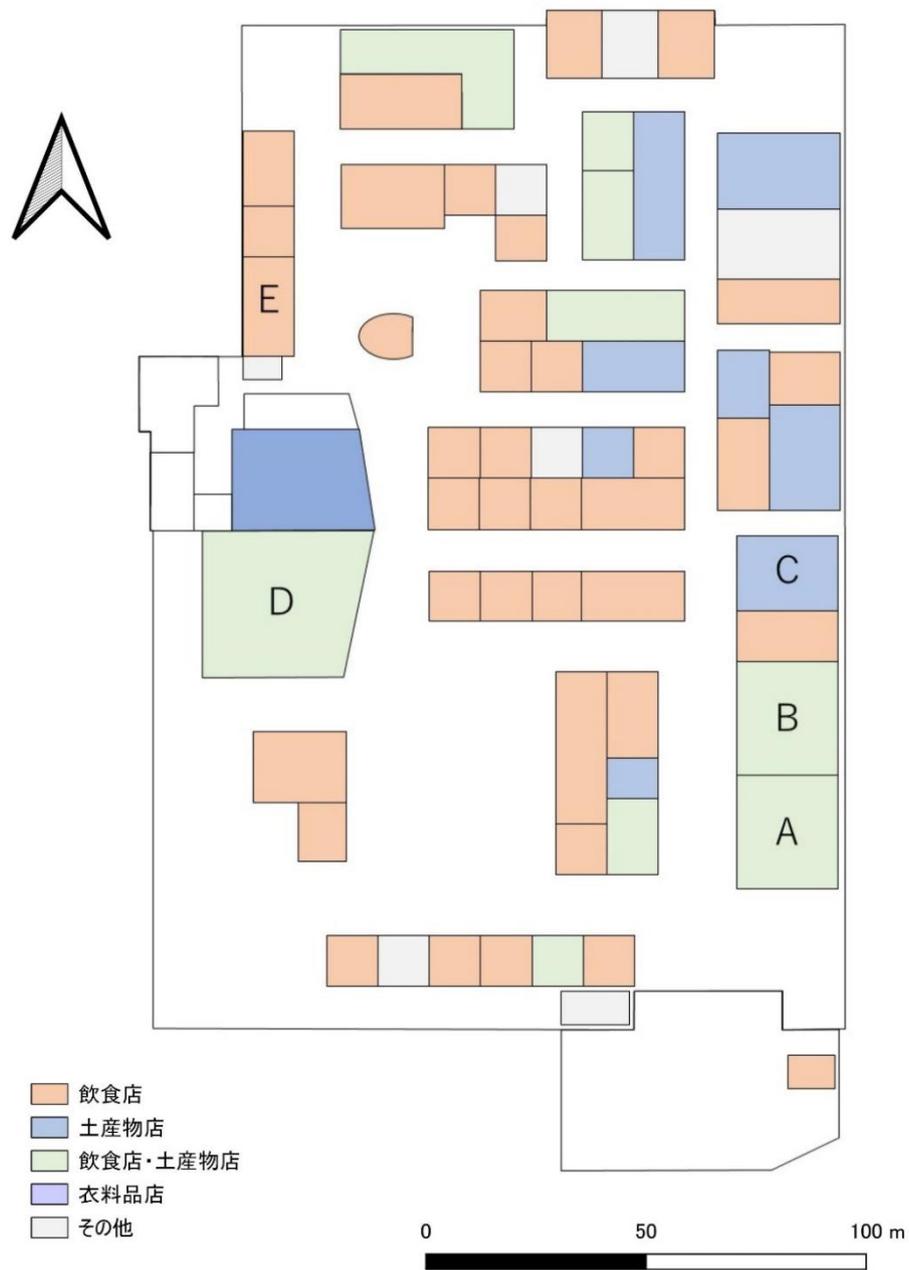


図 12 ひろめ市場の構成店舗（2019 年）  
 （帯屋町二丁目商店街振興組合提供資料、ひろめ市場「お店のご紹介」より作成）

図 10～図 12 はひろめ市場の構成店舗を示した地図である。図 10 は 1998 年、図 11 は 2009 年、図 12 は 2019 年の構成店舗を示しており、1998 年の開店以降、ひろめ市場の構成店舗が 10 年ごとにどのように変化したのかを述べる。

まず、図 10 と図 11 を比較すると、図 10 では 15 店舗あった土産物店が 6 店舗に減少し、飲食店が 37 店舗から 39 店舗に増加していることが分かる。もともとひろめ市場は現在のような観光市場としての位置づけではなく、地元の人向けの市場としてオープンした。図 11 では飲食店が増加することによって観光客がその地域の食文化を楽しむことができる場となることによって観光市場としての役割が強まり、オープン当初よりも地元の人向けの市場としての役割と観光市場としての役割が交差するようになったといえる。

次に、図 11 と図 12 を比較すると、図 10、図 11 でそれぞれ 5 店舗見られた衣料品店はなくなり、飲食店 38 店舗、土産物店 9 店舗、飲食店と土産物店両方を扱う店舗が 9 店舗、その他の店舗が 7 店舗で構成されていることが分かる。これは、ひろめ市場が高知県の食を楽しむだけでなく、高知県の土産物を買ったり、施設内にある観光案内所で高知県内の観光地の情報収集をしたりなどができる空間として、地元の人向けの市場から飲食を中心とした高知県の観光の拠点としての役割を果たす空間に変化したことにより、ひろめ市場が高知県の観光において食の中心地となったことを示している。

また、図 10～12 における A、B、C、D、E はそれぞれ開店当初から現在まで営業を続けている店舗であり、A、D、E はカツオをはじめとする水産物を取り扱う店舗、B は精肉店、C は土産物店である。これらの店舗は高知県を代表する食や土産物を扱う店舗であり、ひろめ市場の中でも重要な位置を占める店舗であるといえる。

#### IV. おわりに

高知県の観光において、高知県中部の観光施設を中心として歴史や食といったものが重要な役割を果たしているといえる。高知県では四国地方や近畿地方、中国地方といった高知県に近い地域からの観光客が多く、鉄道及び自動車でのアクセスがしやすい地域からの観光客が多いという点も、高知県の観光の特徴である。

また、高知県を訪れる観光客の多くは現在の高知県の観光において、食を重要な要素の一つとしてとらえていると考えられる。そこには、高知県の風土が食素材に恵まれているという理由だけでなく、高知県の人々に根付いた接待の文化が表れているといえる。ひろめ市場はもともと「商店街活性化の核になるように」、という思いでオープンし、地元の人々の市場として栄えていたが、現在は高知県ならではの雰囲気を楽しむことのできる観光スポットとして注目されている。「高知県のグルメを一度に食べられる場所」であることで高知県の観光における食の中心地となり、観光の形態の変化につながった。

今後の課題として、ひろめ市場が高知県の食や文化を観光客が楽しむことができる施設となっていることにより、周辺の商店街をはじめとする店舗への県外観光客への波及効果があまり見られないという点が挙げられる。ひろめ市場は周辺の商店街から独立して営業

が行われているが、ひろめ市場が食や文化を楽しむことのできる場として集客しているという特徴を生かすことで、ひろめ市場から周辺の商店街へと観光客が周遊できるルートが形成されるきっかけとなるのではないかと考えられる。

—謝辞—

本稿を執筆するにあたり、公益社団法人高知県観光コンベンション協会総務物産課長兼受入課長の石本浩之進様、高知県観光振興部観光政策課チーフの飯田聖子様、長尾智史様、協同組合帯屋町筋高知市中心街再開発協議会の山中範博様にはお忙しいところ大変お世話になりました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

—参考文献—

- ・ 一般社団法人高知県移住促進・人材確保センター：『高知家の魅力』（最終閲覧：2023/01/10）。<https://kochi-iju.jp/info/qol/>.
- ・ 高知県：『高知県の概要』（最終閲覧：2023/01/10）。  
<https://www.pref.kochi.lg.jp/richi/about/>.
- ・ 高知県観光振興部観光政策課（2022）：『県外観光客入込・動態調査について』（最終閲覧：2023/01/10）。  
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020101/2017090600162.html>.
- ・ 高知県産業振興推進部大阪事務所：『関西から高知県へのアクセス』（最終閲覧：2023/04/06）。  
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/120902/2018042700206.html>.
- ・ ひろめ市場：『お店のご紹介』（最終閲覧：2023/01/10）。  
<https://hirome.co.jp/shop.html>.